

ごみ問題

問 ごみ減量化を優先し、現有施設の活用を

答 広域連合でやることにメリットがある



小林英雄議員

【新ごみ処理施設建設】

問

大町市の荒井民生部長は、「大町のプラントは平成22年が寿命ではない。」と明言しています。また、白馬の施設は32年頃まで使用可能であり、厳しい財政状況を直視し、現有施設をできるだけ長く使用すべきです。観光客の減少などもあり、もっと減量化に取り組むべきではないですか。

村長

ごみの減量化は当然のことであり、建設用地が決定すれば、用地買収費・工事費について再検討し、焼却能力が過大であれば、適正



ごみ処理施設完成イメージ

規模に変更することも可能です。広域連合で建設すること

により、ハード・ソフト面のメリットが生まれます。

問

村長は、議会冒頭あissaつで「議決」とか「承認」の言葉を頻繁に使っています。どのよう区別しているのですか。昨年2月23日緊急全員協議会で、村長から「最終候補地が飯森に決まった」との報告がありましたが、どちらですか。

村長

議案として提出されたものが「議決」（地方自治法第96条の項目）であり、全員協議会や委員会でも賛否を問ひ、でた結果が「承認」（法第96条以外）となります。よって、飯森が最適地であると、承認されています。

問

村長あissaつの「情報」がすべて万全に発信されたとは思わない」と言われたが、断片的な発信は混乱を招くだけで、住民にも議員にも情報公開は不十分だったと思います。

村長

断片的な情報ということではなく、広域連合でごみ処理施設建設決定以降の情報について、量・質がすべて満たされていたとはいえないが、間違った情報は提

問

広域連合は、情報を積極的に公開せず、求められてようやく公開することが多かったと思います。「最終的な絞り込みができるまで発表せず、発表されれば、そこを適地として尊重しよう」との考え方が問題です。飯森とするかどうかは、村民が決めるべきです。

村長

情報提供は、積極的に行ってきたつもりです。

問

村長は「飯森地区が戻るのが筋であり、再度村での候補地は難しいと考えるのが当然」であるとして、村に施設が欲しいと考える住民に「飯森でも仕方がない」と思わせる発言です。「再度」を撤回する考えはありませんか。

村長

村内のほかの候補地が、不適と判断されたことにより、飯森地区以外に村には候補地がないと考えるのが妥当だということです。

供していません。